

Wake Up Japan対話のための23の約束

【安心】

1. 私たちは異なる経験、国籍、宗教、性別、ジェンダー、または、多様な背景や価値観をもっているという前提で話し合しましょう。誰もが無自覚に偏見のある発言をする可能性があることを理解しましょう。(痛みがあったらそれもぜひ伝えてください。)
2. 自分と異なる意見であっても最後まで意見を聞くようにしましょう。ただし、安心を確保する場合に限って、主催者は話し合いを止める場合があります。
3. 発言する際は、「意見や解釈」と「事実」を使い分けるように心がけてください。また、それが個人の経験としての事実である場合は、(意図をしない偏見を生むことを防ぐために) そのことを示すように主語を明確にして発言することを心掛けてください。 [I Statement]

4. 自分と異なる意見の発言者に対して、その人格に関して否定的な「態度」をとることは控えてください。ただし、相手の発言を受け入れた(賛同するという意味ではなく、その場に存在することを受領した)うえで、異なる解釈を示すことを妨げるものではありません。

5. 所属や立場に関係なく、誰もが対等な立場で話し合いに参加できます。

6. 話し合いの中で「居づらく」なったり、つらいと感じた際は、その場から離れることも自由です。誰もあなたを強制的に「参加」させるものではありません。

7. 誰もが間違いをし、誰でも自分の発言を訂正する権利があります。

【オフレコ】

8. 「この場でとどめたい」という話がされた場合、そこで見聞きしたことはこの場だけにとどめるようにしましょう。

9. 「この場でとどめたい」話の続きをしたいという場合は、プライバシーが守れる空間を確保したうえで、そういった話をしてよいか本人に尋ねて許可を得たうえで話をするようにしてください。また、相手が申し出に対して拒否をできる環境を確保してください。

10. 誰かがあなたに話しをしたからといって、それは第三者に「その話」を話してもよいということではありません。本人の了解なく第三者にその人の話をすることはしないでください。

【知識】

11. わからない言葉があった場合は、わからない人が悪いのではありません。その代りにわからないことを伝え、説明をしてもらいましょう。それは、話し合いに参加する全体にとって共通理解を生むことができる大きな貢献にもなります。

12. 話し合いにおいて、言葉に違和感があった時はその意味を聞いてみてください。あなたのその言葉に対するイメージと認識は、他の人のそれとは異なることがあります。それぞれの違いを認識することは対話を行い、相互に理解を高めるうえで重要な事柄です。

13. 質問をするということは傾聴しているからこそできることです。また、質問をすることで新たな学びを生む場合があります。お互いに問いかけを大切にしましょう。

14. 話し合いでは、知識だけでなく、一人ひとりの感情や気持ちを分かち合うことも重要であることを心がけましょう。

【参加のあり方】

15. リアクションや反応は積極的にしていきましょう。それによって、より「受け入れられた」という意識が高まり、安心を感じやすくなります。

16. 発言をせずにただ聞くだけということでも問題はありません。

17. 話がまとまっていなくても構いません。

18. 対話の時間中に気づきがなかったとしても問題ありません。人が気づいたり考えたりするには個人差があります。気づきはなかったとしても問題はありませんし、その気づきが対話の翌日でも一年後でも全く問題はありません。

【アイデアを容易に出し合う】

19. この場での話し合いによって、何かしなければならないというようなことはありません。

20. どんなばかげた意見でも言ってもよい場としましょう。新しいアイデアは時としてそういった空間から生まれるものです。

21. 他の人がアイデアを出した際に、可能な範囲でそのアイデアを広げるように心掛けましょう。(乗っかる。ちょい足しする)

【目的を明確にしたイベントの場合】

22. この場に集う目的に即している限り、あらゆる違いを認める場です。様々な人が安心できる場を共につくっていけるようにしましょう。

23. この場に参加する目的に即している限り、また、周囲が目的を追求することの妨げにならない範囲で、自主的な選択に基づいて参加、あるいは、不参加するようにしましょう。